

専門学校の卒業研究発表会で防災について講評

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 菅井如良1等陸尉）は、2月12日（水）、大原法律公務員専門学校横浜校（横浜市神奈川区）で実施された卒業研究発表会に来賓として参加した。同発表会では学生が同校で学んだ集大成として、「防災」をテーマに地域社会が抱える課題に対して、グループ毎に作成した資料を用いて説明した。

発表の際に多く取り上げられたのは、大規模災害における対応についての議題で、過去の大きな震災に始まり、これから起こる可能性が高いとされる南海トラフ地震や首都直下型地震まで、地域特性や世代毎に応じた対応要領などについて、学生から画期的なアイデアや対策が発表された。

終盤、それぞれの発表を踏まえた講評においては、横浜所の菅井所長より、災害派遣の実体験に基いた現実的かつ具体的な意見が述べられると、真剣な眼差しで聞く学生の姿が多数見られた。

横浜出張所は今後も、「自衛隊への募集のみならず、学生の成長を支えるメンターとして、多面的なサポートを維持できるよう尽力する」としている。



輝く未来へ！合同職業ガイダンス

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（出張所長 宮城英明1陸尉）は、2月15日（土）、川崎市消防局講堂にて、「公安系公務員の話が聞けるチャンス！」と銘打って、海上保安庁、神奈川県警察、川崎市消防署と自衛隊の4業種合同で職業ガイダンスを行いました。

各機関はそれぞれ約40分間の持ち時間を使い、採用された後の生活や、収入面、休暇のワークライフバランス等について、趣向を凝らして参加者にわかりやすく説明しました。自衛隊は、参加者に一番年の近い広報官が自衛官募集サイト「WHY?自衛官」(<https://www.mod.go.jp/gsd/jieikanbosyu/statement/>)の資料を用いて入隊後の流れやキャリア形成についての説明したほか、給与面以外にも数多くの処遇改善が実施されていることをアピールしました。その後、各ブースでは活発な質疑応答が行われ、参加者は今後の日程や出願方法等を確認していました。

参加者からは、「一日の流れや災害時の活動がわかって良かった」や「試験について知ることができて参加してよかった」などの声が聞かれました。初めて公務員合同ガイダンスに参加したという高校生は、「とても楽しかった。自衛官になりたい気持ちが固まった」と清々しい笑顔で話してくれました。

川崎出張所長は「今後も他機関等と協力しながら自衛隊の魅力伝えていきたい」としています。

